

# 中原中也

## ◎特集Ⅰ

### 追悼・中原美枝子氏

弔辞 中村稔

弔辞 福田百合子

美枝子さんの思い出

## ◎特集Ⅱ

### 記念館リニューアル

#### Renewal Open

新しい記念館を歩く

テーマ展示「中也 愛の詩—長谷川泰子をめぐって」

企画展示「中也の書」

## ◎企画展

『青いソフトに—北原白秋と中原中也』

## ◎小企画展ピックアップ

『中原中也～和本デジタル文庫～ 創本 藤本智春』

『四谷花園アパート時代—竹田鎌二郎日記より—』

## ◎新収蔵資料紹介

『青い花』

『詩報』

主なできごと(平成15年度 行事記録)

第9回中原中也賞受賞作品

平成16年度 行事予定



## Chuya Nakahara Memorial Museum

## 中原中也記念館

# 館報2004



Public relations magazine

第9号

# 追悼・中原美枝子氏



平成9年2月18日撮影

中原中也の弟である夫・思郎氏が昭和57（1982）年2月に亡くなられてから、中原家の代表として、中也に関わるあらゆることに携わられた中原美枝子氏が、平成15（2003）年6月25日に逝去されました。享年84歳でした。ご遺族代表として、記念館運営協議会委員、展示検討委員などを務めていただき、企画展、中也賞贈呈式、生誕祭、中原中也の会など、様々な場所にご出席くださり、記念館を支え、ご指導くださいました。  
ご冥福を心よりお祈り致します。



生誕90-2年祭  
会場の維新百年記念公園野外音楽堂にて

## 中村稔氏弔辞

中原美枝子さんのご霊前に謹んでお悔みを申し上げます。

美枝子さんと心安だてにお呼びする失礼をどうぞお許し下さい。私には美枝子様とお呼びするのはあまりに他人行儀に思えるほど、貴女はいつも私に親しく暖かく応待して下さいだったのでした。

私は昭和二十六年創元社版の第一次の中原中也全集の刊行にさいし大岡昇平さんをお手伝いして編集に関係して以来、角川書店刊の第二次、第三次の全集、さらに現在刊行中の第四次の新編中原中也全集に至るまで、その編集に関係してきましたので、すでに半世紀以上にわたり中原中也のご遺族の方々から一方ならぬご厚誼を頂いて参りました。当初はご母堂福様、ついで思郎さん、思郎さん亡き後は美枝子さんからじつにさまざまなお協力とご教示を頂きました。いま美枝子さんのご霊前にご遺影を拝見していると、在りし日を偲び、万感胸に迫るものがございます。わが国文学史上稀有の天才詩人であり、没後七十年に近い現在もひろく愛され、親しまれている中原中也の全集が四回にわたり編集し直され、内容はますます充実したものになっていますが、これもひとえにご遺族の方々が中也の遺稿、遺品類を大切に保存されておられたからであると私は考えております。

たとえばかつて中原家の火災のさい思郎さんが身を挺して火の渦に飛びこみ、ご自分の物は顧みることなく、中也の遺稿、遺品類を救いだされたことがあります。

美枝子さん、貴女はそういう思郎さんの志を

ついで、ふかい愛情と細心の注意を払って中也の遺稿、遺品類の保存に努めておいでになったのでした。

現在刊行中の新編中原中也全集の編集に着手したさい、遺稿のカラーコピーをとるため遺稿を東京に運びたいとお願ひしたことがありました。結局は山口でカラーコピーがとれましたので東京に運ばないですんだのですが、そのとき、東京へ持っていくのはよいが、飛行機では困る、新幹線で、それも一人では席を立つこともあるので、二人で運んでもらいたい、というご返事でした。当然といえば当然ですが、美枝子さんが中也の遺稿類をどれほど大切にとり扱っておいでになったかを私はそのとき思い知ったのでした。

また、中原中也記念館の開館前に、中也記念館に遺稿類をお貸しするのはどうも気が進まないとおっしゃったことがありました。その理由は開館のため遺稿類の写真版等を製作したさい遺稿類のとり扱いがかなり乱暴だったのでそれが美枝子さんのお気に召さなかったのです。

しかしそういう美枝子さんのお気持ちを山口市の側も真摯にうけとめて、現在中也記念館は美枝子さんのご意向に沿うようなかたちで運営されており、ことに最近収蔵庫が新設されたことを美枝子さんが喜んでおいでになったと承知しております。

中原中也賞の贈呈式にも、また、中原中也の会にもいつもおでまし下さって私たちを励まして下さいました。もう二度とお元気な、そして、いつも笑顔をやさなかつたお姿に接することはできないのだと思うと、悲しきで胸が一杯になります。

今では中也記念館は個人文学館の記念館とし

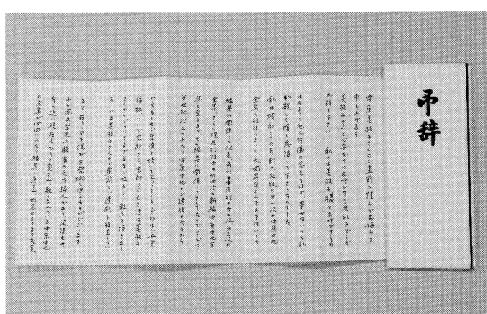
て全国でも屈指の施設として活発な活動を展開しています。これも美枝子さんのご厚意、ご理解、ご配慮のたまものであると私は考えております。

中原美枝子さん、貴女はいわば大文学者の遺族の鑑ともいふべき方でした。中也の遺稿、遺品類をふかい愛情とこまやかな配慮をもって保存し、中也の業績を完全に後世に伝えるためにご尽力下さって、本当に有難うございました。中也を研究し、また、中也の作品を愛する無数の人々にかわって、私はあらためて心からの感謝を申し上げたいと存じます。

中原美枝子さん、どうぞ安らかにお休み下さい。ご冥福をお祈りして私の弔辞とさせていただきます。

平成十五年六月二十八日

### 中村 稔



中村稔氏弔辞

## 福田百合子館長弔辞

中原美枝子様のご霊前に捧げます。

中原家の要として今日まで長い間立派に、最上の形で努められたと、心より敬意を表したいと存じます。

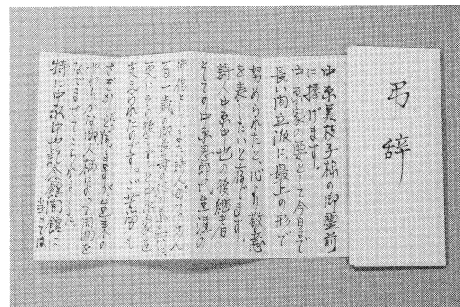
詩人中原中也の後継者としての中原思郎氏生涯の伴侶として、また詩人の母フクさん百歳の御長寿の終りまで共に、更にその後もずっと中原家を支えられたのです。ご苦労もさぞかしたと存じますが、生来のやわらかな御人柄によって、周囲をなごませてこられました。

特に中原中也記念館開館に当たってはひとかたならぬご協力を賜り、記念館運営協議会委員として貴重なご助言をいただきました。

金沢や鎌倉の文学館へのお供も致しました。「桑名の駅」構内に出来ました、あの「桑名の夜は暗かった」という中也詩碑の除幕式にご一緒したことも忘れられません。

お茶の先生としてのお稽古やお茶席への出席を楽しみに御元氣にお過ごしだったので、五月申中のご入院を心配していた矢先のご訃報でした。今年春先、中也末弟拾郎氏夫人が急逝、つづいて同じ年の拾郎氏まで全く突然亡くなられ、非常に落胆のご様子でした。それでも四月二十九日中也生誕祭、中也賞授賞式には最後まで付き合われ、楽しめたご様子で少し安心しましたのに、随分お体が辛かったのかと、そのがまん強さに、胸をしめつけられました。

来年には記念館も開館十周年の節目を迎えます。次の新しい展開を是非見ていただきたくたと心残りではありません。ただ先般新しい収



福田百合子館長弔辞

蔵庫が完成したのをとても喜ばれたのがせめてもの慰めです。

記念館の裏口から、甘いものや飲物の差し入れがあった懐かしい日々の思い出……：本当に淋しくなりました。常々、中也の作品を読むと心に平安（やすらぎ）が訪れるとおっしゃっておられました。

中也の名作、詩集『在りし日の歌』の中の「六月の雨」の季節、お好きだった山野草や樹々の緑がひときわしみじみと「中也生誕之地」の石碑の文字にも、あたりにも、溢れるばかりの今日、心より改めて、深く御礼を申し述べさせていただきます。

また御心を遣われたであろうご遺族共々、中原中也のすべてを大事にとお伝えし、どうぞ安らかにと御祈り申し上げ、御霊前に捧げる言葉と致します。

平成十五年六月 雨もよいの日に

中原中也記念館館長

福田百合子

中原美枝子さんのご令嬢である、  
克子さん、文子さんのお二人に、  
平成16年2月5日(金)、中原家にて  
お話を伺いました。

### ○美枝子さんの生年月日・ 出身地を教えてください。

生年月日は大正七年七月十三日。

母のお父さんは山口の人です。日産化学の  
常務でした。父親の仕事の関係で、母は小野  
田で生まれました。

厚狭の女学校から、専攻科がある山口女学  
校(今の山口中央高校)に進みました。父親  
が小野田から東京へ転勤になって、山口高等  
女学校卒業後東京へ。東京家政大学に二年行  
きました。勉強が好きで、なかでも理数が得  
意だった様です。

### ○思郎さんとの結婚のいきさつは どんなものでしたか。

祖母・福も山口女学校で、当時、生徒が十  
二人いたらしいです。その中の同級生が母の  
親戚で、その方のお世話です。お茶の水女子  
大学かどこかの先生になってたと思います。  
叔父様が画家で下関講和条約の画を描いてい  
て、母が上野の美術館に行ったらその画があっ  
たらしいです。

拾郎叔父が、母がお嫁に来たときコスモス  
のような人だったよと言っていました。色が白  
くて髪が今風で赤毛だった。当時は本人は嫌  
だったそうです。眼の大きい、外人っぽい顔

で。その頃の写真は火事で焼けました。  
父は母のことを、鼻筋が通って眼がぱちち  
りして面長で、お父さんの好みだったって、  
私たち子供相手に言っていました。

結婚した頃は、父も良かったんですよ。京  
大の法学部を出て、宇部興産の社長秘書をし  
ておりました。母がお嫁に来たのは良かった  
けど、これがなかなかの変わり者ですんで  
ね。人に使われるとかいのが難しい人で、  
会社を辞めたりね。

母が言うておりましたが、自分の父・尚輔  
は背が高かった。夫の思郎は低かった。初め  
は何とも思わなかったけど、私たちが生まれ  
て背が低かったから、父親の遺伝があるんじや  
ねと思つて、やっぱり少し背の高い人が良かっ  
たとその時思つたそうです。

お祖母さんが小さいの。でも、お祖母さん  
の父・助之さんはすごく背が高い。助之さん  
は英語の通訳で、横浜に行っていました。祖母  
が何かの時に父親の仕事場に行ったら、すべ  
て英語なので何を話してるのが全くわからな  
かったそうです。



ご家族と  
後列左端が美枝子氏

### ○思郎さんのかかわりは どうでしたか。

父は個性的。純粋な人ではありません。現  
代の女性だったらなかなかついていかなか  
ったかもしれませんね。でも仲は良かったです。  
普通、女性が葉書とか書きますが、全部父  
が書いていました。亡くなってから、母がペ  
ン習字の練習をして書いてました。それまで  
は年賀状なんかも全部父。

宇部興産でも会社の新聞を発行していま  
した。職業を変った時でも、広報課になって、  
自分に向いた仕事があったと喜んでいま  
した。

祖母が言っていました、森鷗外さんは医者  
しながら文章を書く、思郎も医者になれば良  
かったって。

書くことが好きだったから、私たちがちよ  
つと親戚なんかに行くでしょう。到着よりも早  
く葉書が着いてるんですよ。無事に着きまし  
たかって。

それかと言つて詩なんかは書かなかった様  
です。中也さんを見たら、自分はとてもか  
ないませんからね。

本当に中也を尊敬してりました。呉郎、拾  
郎は五番目、六番目でしょう、時々身内だか  
ら悪く言うこともありましたが。父の場合、  
それが不思議となかった。

やんちゃ坊主の父でしたけど、最後は本  
当に父が母に頼り切つて、母も、私を頼りに生  
きてくださいって。父は大動脈瘤でしたから。  
手術もできませんし、瘤ができて明日死ぬか  
もしれないという病気でしたからね。

特集 I ● Lament for Meiko Nakahara 追悼 中原美枝子氏

# 美枝子さんの

## ○母親としての美枝子さんは どのような人だったのでしょうか。

とにかくお料理が上手な人だったんですよ。私の子どもなんかはおばあちゃんの料理で育ったというか。美味しいお料理をいつも出してくれてたんです。お節料理なんかでも全部手作りです。伊藤拾郎さんも喜久子さんも、何十年来毎年こちらにいらっしやって、夜遅くまで楽しんでいただいております。

母が何でもできるとても賢い人だったから、甘えすぎてなかなか大人に成りきれない私たちができたんです。

父も、英字新聞なんかを読んでもましたよ。私たちが高校の時でも、英語を教えてもらっていました。

父は子煩悩ですわえと言われたことがあり、母も子煩悩ですけど、昔は兄弟が十人くらおりましたからね。母は上から三番目でした。自分の兄弟も母親代わりくらい面倒をみていて、参観日なんかに行ってたそうです。

私（文子氏）がまた、末っ子だったから大きくなくてもずっとおんぶ。こないだ母の妹さんが見えたときに、「まあおかしかったよ、あんな大きくなってもずっとおんぶしてこの辺をうろうろしてたよ」って。私をおぶって買い物ね。私は全然覚えてないけどね。

## ○茶道と美枝子さんとの関係は どういふものでしたか。

ここへ嫁いってから祖母の影響で。福は六つの中からしてらるでしょう。中原家のお寺が長楽



# 思い出

## ○美枝子さんの中也像は どういふものだったのでしょうか。

父と重ねているような面もありましたけど、中也さんの書いておられるものを読むと、ほんとにすばらしいって。

でも父が生きているときは、母はそれほど中也さんに関心があるように見えませんでした。

父が亡くなってから、やっぱり守らないという気持があったんだと思います。父が本当に中也さんを尊敬してたから。

私たちでも、身内っていうのは愛するから、ちよつと悪く言ってみたりするけど。中也さんのことはほんとに大事にしました。

## ○記念館ができてからは いかがでしたか。

ありがたいですけど悩みましたね。良かったのかどうか。

中也が落第した時、父謙助が落ち込んで病院を三日間休んだっていますからね。今考えたら何てことないですけどね。謙助さんのことを思うと、良かったんじゃないかねえって。だから中也さんを大事にねって、母はいつも言っていました。

母は、九十歳まではがんばりたい、生きとりたいって言ってました。記念館のことが気にかかってましたからね。中也さんのことに一生懸命だったから。どうしてこんなこと思うほど。何事に関しても一生懸命な人でしたね。



お茶席にて

寺さんで、そこから少し離れた玄濟寺さんで、昔はお坊様に教わっていたそうです。

中也のお父さんの謙助さんも、仕事で疲れた時に、御抹茶をいただきますと、よくお茶室でくつろいだそうです。

1937年、30歳で夭折した中原中也—  
没後60余年を経た今日、  
その詩はさらに輝き、愛誦されつづける。  
角川版旧全集を全面改訂、  
30年ぶりの本格的・新編「定本」全集!

## 新編 中原中也全集

全5巻+別巻1

【編集委員】

大岡昇平・中村稔・吉田熙生・  
宇佐美斉・佐々木幹郎



各巻、前例のない画期的二分冊構成

- ◆「本文篇」＝厳密な校訂による新本文の確定
- ◆「解題篇」＝各作品の成立・推敲過程を詳述

第1巻 詩Ⅰ\*  
新発見詩篇2

第2巻 詩Ⅱ\*  
新発見詩篇2

第3巻 翻訳\*  
新発見散文3

第4巻 評論・小説\*  
新発見草稿4

第5巻 日記・書簡\*  
新発見「療養日誌」・新書簡31

別巻 (上)写真・図版篇  
(下)資料・研究篇  
(第6回配本)初公開資料多数 \*印既刊

造本

四六版・並製・カバー装・美装貼函入  
各巻「本文篇」[解題篇]二分冊(分売不可)  
第1巻～第5巻  
本体 8,190円～10,290円(税込)

第1巻～第5巻 発売中

角川書店

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3  
TEL03-3238-8521 FAX03-3262-7734

特集 I ● Lament for Miko Nakamura 追悼・中原美枝子氏

## 美枝子さんの 思い出



○中原家のご兄弟については  
どのように言われて  
いたのでしょうか。

おばあさんから聞いていました。  
中也はあの若さでね。私の父より六つ上。  
もう少し長生きしてくれたら会えて話しとっ  
たんじゃけど。

親いものものは、すべてが真つ直ぐに進んで  
くれればと思いますよね。時代が時代だから。  
長男っていうのは違ってたんでしょね。習

字も一生懸命に教えてますね。中也は、結婚  
して七年ぶりにできた子どもでしょう。中原  
家にとっては何十年ぶりの男の子ですから。

祖母は子どもができたことを、五番目くら  
いから引頭おばあちゃんに言えなかったさう  
ですよ。お腹が大きくなつて気付かれるまで。  
おばあさんがおしめを洗わなきゃいけないか  
ら。子守を二年おきに六人でしょ。最初は嬉  
しいですよ。でもだんだんね、負担がかかる  
から。おばあさんが、なるべくお腹の中に入  
れとってくださいよって。

謙助さんは女の子が欲しかったから、今度  
は今度はずつて。四番目の時は赤い着物を揃え  
たつて。父は女物を着てたさうです。謙助は、  
女の子が生まれたら縮緬の着物を着せて赤い  
鼻緒の草履をはかせたい、そうさせたいとずつ  
と話してたさうで、でも最後まで男の子で、  
と祖母が言つておりました。

中也のことは祖母・父・叔父達にもつと聞  
いておけば良かったと思います。母は中也の  
着ていた衣服の事とか、父に聞いて知つて

ことをいつか書いてみたいと申しております  
たが、母も茶道やらで忙しくて。書くとき  
たですけどね。

○美枝子さんの  
好きだった詩は何ですか。

母の好きだった詩は「朝の歌」。自分の庭  
に詩碑を建てたほどです。

それから「臨終」もすばらしい、百合花の  
イメージがほんとにいいねって。

「六月の雨」も好きだったと思いますよ。  
それから「サーカス」。この詩は父も好き  
でした。

※美枝子さんから聞いていらつしゃつたこ  
となど、お二人は昔を思い起こしながら語つ  
てくださいました。それぞれの記憶を一つ  
にまとめ、収録させていただきました。



中原家の「朝の歌」詩碑の前で

# 中

也との新たな出会い」がリニューアルのコンセプト。中也の詩の世界を多くの人に体感してもらえような展示のあり方を見直してきたが、二度、三度と来ていただけの記念館に二歩近づけた。

(山口市長リニューアル記念式典挨拶より)



リニューアル記念式典テープカット

左より佐藤泰正氏、中原家ご遺族岩谷文子氏、武田寿生市議会議長、合志栄一市長、福田百合子館長

## リニューアルまでの経緯

平成6年2月の記念館開館以来、常設展示が固定式であるため展示替えが出来ない状態であり、リピーターを含む来館者も平成6年度の年間約五万八千人をピークとして14年度には約二万七千人と年々減少傾向にありました。また、資料の収集を鋭意進めてきましたが、収集資料の増加やその収集資料を展示するための展示スペース・収蔵スペースが不足するといった問題も浮かび上がってきました。

## 展示検討委員会の存在

開館当初から現在の展示構造及び内容については中也研究者の方々からも不満やご指摘があつて、そうした面を打開するため「中原中也記念館展示検討委員会（以下、「展示検討委員会」という。）」を平成12年に設置し、喫緊の問題として来館者ニーズ並びにリピーターの確保に配慮するべく、収蔵庫の増築（15年3月完成）、中也研究者の採用（15年4月採用）、展示機能の全面見直しを計画し、開館十周年となる平成16年2月を目途に大規模なリニューアルに取り組むこととなりました。

展示検討委員会は、第一に「常設展示に関する計画の策定及び実施に向けての監修」、第二に「これからの展示の方向性に関すること」を協議目的として設置しました。構成委員は、佐藤泰正氏（梅光学院大学生涯学習センター所長）、中村稔氏（詩人・全国文学館協議会会長）、北川透氏（詩人・梅光学院大学副学長）、佐々木幹郎氏（詩人）、宮崎浩氏（中原中也記念館設計者）、故中原美枝子氏（遺族代表）の六名の方々で、平成13年2月に初会合を開き、全5回の委員会を開催し様々な議論を重ねていただきました。

## 展示検討委員会の意見

展示検討委員会では、詩人・研究者・建築家という様々な立場から多岐に渡るご意見をいただきました。展示のあり方や展示構成、資料の公開方法など、個人記念館として中也を顕彰するために何をすべきか、また文学館としてのあるべき姿を追求した大変意義ある意見が交わされ、このリニューアル事業推進

の支柱となったところでその一部をご紹介します。

# 声

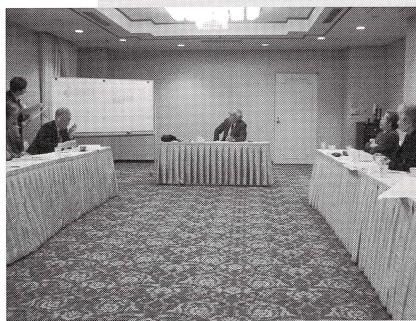
voice

・リニューアルが単なる展示替えに終わらないように展示の仕組みを見直すべきである。

・専門家がいても面白い、しかし、全く知らない人が来て、ある展示を見てこの作品をうちへ帰って読んでみようと思う、その両方を満たす展示があつて欲しいと思う。作品を読んだことのない人にいかにその作家の魅力があるかを教えるような展示でなければいけない。それは同時に、専門家にとっても面白い展示になるはずである。

・ひとつの角度から掘り下げて展示をする方が面白いし、そういった事を考える方が中也を深く理解できるし、リピーターも増やすことができる。

展示検討委員会協議風景



平成16年2月22日、これまで多くの方々に愛され親しまれてきた中原中也記念館は、開館十周年を記念して待望のリニューアルオープンを果たしました。ここでは、その装いも新たになった中原中也記念館のリニューアルまでの取り組みをご紹介します。

## 特集Ⅱ ● 記念館リニューアル

# Renewal Open

## リニューアル事業の実施

展示検討委員会の意見を踏まえるとともに、記念館独自のアンケート調査や館内滞在時間等の実態調査を行い、リニューアル事業実施に向けての基本方針等を次のようにまとめ、15年12月から記念館を全面休館して展示工事等に取り組んできました。

### リニューアルの方向性

- ① 収蔵資料を収蔵庫に眠らせることがないよう、できるだけ多くの資料を公開する
- ② 遺稿等の展示にあたっては様々な角度から見せるよう努める（特に詩や散文については全文を紹介し、読み親しむことができる展示構成とする）
- ③ 研究者だけでなく、中也を好きな人が何回も訪れたいという展示内容を目指す（記念館を訪れた後に、中也の詩集を読んでもたくなるような展示、記念館を目指す）

### リニューアルの概要

#### ◎常設展示の改修、テーマ展示の新設

1階常設展示部分の固定展示パネル等を取り除き、フリーなフロアとし、そのスペースに可動式の展示パネルを配備しました。また、常設展示を「固定展示」と「テーマ展示」に区分し、常設テーマ展示は1年ごとにテーマを設定し展示替えを行うこととしました。限られた展示スペースを見直し、様々な所蔵資料を収蔵庫に眠らせることなく公開できる仕

組みを確立したものです。

また、2階展示室を増床（12.5㎡）して企画展示室として新たに位置づけました。

#### ◎映像、情報展示構成の再構築

情報検索システムは、動画や画像を中心に中也の作品や生涯を紹介する一般向けシステム（1階）と、中也の全作品、関連情報を研究資料としても活用できるシステム（2階）に区分して構築しました。



1階 常設展示 (固定)



1階 常設テーマ展示 (可動式)

#### ◎読書スペースの見直し拡大

建物の特性である吹き抜けと自然光を取り入れた空間を生かしながら、これまで分散していた閲覧コーナーと休憩コーナーを統合し、中也に関する評論・研究書などを中庭を望みながら読書できるスペースとして設置しました。

#### ◎屋外展示の実施

枕木を敷きつめた記念館中庭を開放（午前8時～午後8時）して、四季に応じた中也の詩などを紹介する屋外展示を新設しました。



1階 企画展示スペースとして利用



1階 読書・休憩スペース

## おわりに

このリニューアル事業で特筆すべきは、全国三百館以上ある文学館でも珍しい常設展示を1年ごとに展示替える「常設テーマ展示」の実施を試みたことです。「常設固定展示」「常設テーマ展示」「企画展示」の三本柱を同時に運営していくことにより、記念館展示スペースのおよそ9割が毎年様変わりします。これは、言い換えれば毎年リニューアルすると言えるでしょう。

ただ、中原中也記念館が目指す「中也研究の拠点としての充実」という意味では、これからがスタートであり、今後、このリニューアルした展示構成等を活かし、事業運営をどのように展開していくかが我々職員の課題であり使命だと考えています。

みなさんのお越しをお待ちしております。

## Opening event Concert



リニューアルを記念して、CD「中原中也ソングブック サークス」出演者によるコンサートを開催（16年2月23日）



# 新しい

# 記念館を歩く

リニューアルオープンした記念館はどこが新しくなったのか、みなさんと一緒に歩いてみたいと思います。

### ○ホームページ

記念館に足を踏み入れる前に、新しくなったホームページにアクセスしてみてください (<http://www.chuyakam.jp/>)。記念館に関する最新情報の他、周辺の史跡の紹介、中他の詩の検索、オリジナルグッズの通信販売、投稿コーナー、職員による記念館日誌など、盛りだくさんの内容で、記念館訪問の予習に最適です。

### ○中庭

湯田温泉のバス通りから記念館へと歩を進めていくと、中也ゆかりの山口線に使用されていた枕木を敷き詰めた空間があって、敷地内へと導いてくれます。そこが記念館の中庭です。時間延長して開放することになったこのスペースには、中也が暮らした土地（山口、広島・金沢、京都、東京、鎌倉）を紹介するパネルをアプローチから移設した他、掲示板を新設して、「中也 四季の詩」と題して四季それぞれにちなんだ中也の詩を解説つきで紹介



中庭

介しています。また、館内の展示に関する情報もご覧いただけます。湯田温泉のポケットパークとしても親しんでいただければと思っています。

### ○アプローチ

本館入り口へと続くアプローチには、一般的によく親しまれている中也の詩の一節を五枚のパネルで紹介しています。「一つのメルヘン」「月夜の浜辺」「汚れつちまつた悲しみに…

：「サーカス」「曇天」、それぞれが入り口に向かわれる方の記憶の中にある中也の言葉を呼び覚まし、展示を見ていただく前の導入となるように考えました。

### ○常設固定展示

受付を過ぎて一番手前の部分が常設固定展示です。中也の業績と生涯を紹介しています。業績については、初期短歌、翻訳詩、『山羊の歌』、『在りし日の歌』の四つのパートに別れ、パネルでの解説と代表作の紹介とともに、歌集『末黒野』、『ランボオ詩集』等の詩集や草稿、関連雑誌などが展示されます。生涯については、年譜形式で中也の足跡をたどります。関連する写真、中也自身の言葉や中也に近い人々の回想などを組み込み、見る年譜、読む年譜としてパネルを構成するとともに、関連する資料を可動式のケースで適所に配置しています。

### ○常設テーマ展示

中也の詩は、どのような点に注目するかによって、それぞれに違った顔を見せてくれます。そうした広がりをもった中也の世界を、ある視点から深く追求していくのが、常設テーマ展示です。このコーナーは、特別企画展の期間を除き、1年ごとに設定されるテーマに沿った内容で構成されます。平成16年度のテーマは「中也 愛の詩―長谷川泰子をめぐって」、17年度に「祈り―中也の宗教性」（仮題）、18年度に「詩人をはぐくんだ風土・山口」（仮題）、生誕百年にあたる19年度には「中原中也とフランス詩」（仮題）が予定されています。その後も、「タイスム」「歌謡性」「友情」「山

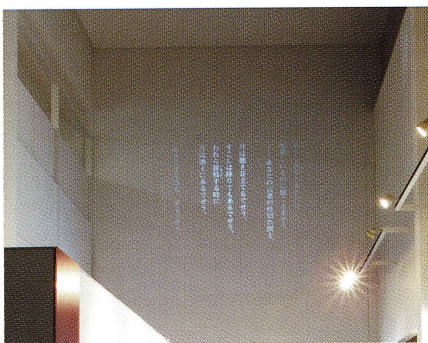
羊の歌」まで」「在りし日の歌」まで」などのテーマを予定しています。



常設固定展示

### ○映像展示

ふと上方に視線を転ずると、吹き抜けの中庭側壁面上部に、中也の詩が投影されているのに気づかれると思います。ゆったりとした時間の流れを表現する映像を間に挟みながら、常設テーマ展示や特別企画展示に関連する詩が浮かび上がり、流れていきます。二階の手すりにもたれてゆっくりとご覧いただくのもよいのではないのでしょうか。



映像展示

# 新しい 記念館を歩く

## ○読書・休憩コーナー

常設固定、常設テーマのふたつの展示を見終えると、中庭に面し、書架、ベンチ、テーブル、椅子などが設置された、明るくゆったりとしたスペースが現れます。これが読書・休憩コーナーです。書架に並んだ中也の関連図書の中から、興味を持たれた詩集や研究書などを手にとって、中也の愛唱したマスネの「エレジー」が時折流れるのを聴きながら、腰掛けてゆっくりと目を通していただきたいと思えます。

## ○情報コーナー

読書・休憩コーナーに隣接して、タッチパネル式のパソコン2台が並んだ情報コーナーがあります。中也の生涯を紹介する映像や中也の草稿の画像が、画面に指で触れるかたちで操作しながらご覧いただけるようになりました。

## ○高田博厚「中原中也像」

1階から2階へと上がると、中庭を見下ろすホールに、中也と親交のあった彫刻家高田博厚の手になる中原中也像を展示しました。中也の視線の先には、中原医院が健在であった時代からそこに立って街の変化を見つめ続けてきたイブキの木があります。夜間はライトアップされ、午後8時まで開放されることになった中庭からも銀色に輝く様子を見ることができます。

## ○資料検索室

中也に関するさまざまな資料に触れていただけの部屋です。手前のCD試聴コーナーでは、従来の中也の詩に基づく楽曲の他、記念館オリジナルCDが試聴できます。ヘッドフォンを使用しますので、周囲の静けさを乱さないようになっています。

また、奥に設けられた4台のキーボード式のパソコンでは、中也研究に役立つ情報を必要に応じて検索できるようにしたデータベースが利用できます。現在は所蔵資料の検索や中也が残した詩篇の語彙や書誌データ検索が可能であり、新しい研究成果を取り込みながら今後ますますデータベースとして充実させていきたいと思っています。レポートや卒業論文で中也に取り組もうとしている方などに利用していただきたいと思っています。

## ○ビデオ放映室

従来放映していたオリジナルビデオ「中原中也の軌跡」を再編集し、プラズマテレビでご覧いただけるようにしています。開館後発見された新資料などを盛り込みながら、より具体的にも中也の世界を映像で知っていたできるように工夫しています。放映時間は約15分で、開館中は繰り返し放映されます。

## ○企画展示

拡張された2階のスペースを使って展開される企画展示は、よりきめ細やかで多様な視点から中也の世界を紹介するところに特徴があります。本年度予定されているものを例として挙げれば、「中也の書」「続・中也の書」などのように原稿用紙やノートといった資料に注目するもの、「文学サロンとしての酒場」の

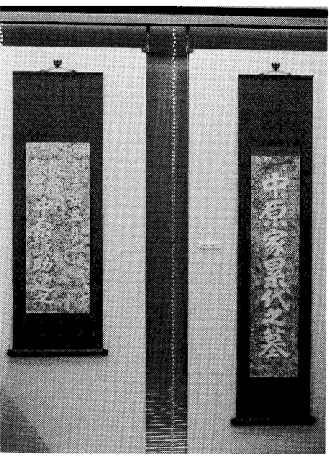
ように中也の文学的な交流の場や時代に注目するもの、「河上徹太郎」のように影響を与えた友人に注目するものなどです。また、例年の企画として「中原中也賞」の受賞者を紹介します。さらには、美術などの他のジャンルと中也の世界とのコラボレーションも試みてみたいと考えています。

また、年に一度の特別企画展は常設テーマ展示と企画展示両方のスペースを使い、他の文学館から借用した資料なども駆使して展示を構成します。本年度は「宮沢賢治と中原中也」の後も「中原中也と西洋音楽」「歷程」と中原中也「四季」と中原中也「小林秀雄と中原中也」などが予定されています。

## ○四行詩

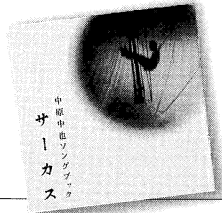
全ての展示をご覧いただいて、2階から1階へと降りて行かれるみなさんの目に入るのが、階段の途中に展示された「四行詩」です。これは、中也の生涯最後の詩であると同時に、展示その他を通じて感じ取っていただいた中也の世界を、おひとりおひとりの心の中に抱いてお帰りいただきたいという、記念館からのメッセージでもあります。

企画展示 中也の書



# 中原中也ソングブック サーカス

リニューアルを記念して  
制作したCDです。



- 【曲目】
- 1 早春の風 おおたか静流
- 2 六月の雨 おおたか静流
- 3 月夜とポプラ フジアンレザパネ (ピアノ・ソロ)
- 5 Sketch of Chuya act 1 一つのメルソー春の日の夕暮〜正午 谷川俊太郎／谷川賢作
- 5 曇天 小室等
- 6 宿醉 小室等
- 7 Sketch of Chuya act 2 言葉なき歌〜春日狂想〜朝鮮女〜また来た春…… 谷川俊太郎／谷川賢作
- 8 雪が降つてゐる…… 深川和美／谷川俊太郎
- 9 丘の上サあがつて 伊藤多喜雄
- 10 サーカス \*草野心平
- 11 サーカス 小室等

\*レコード「中原中也の世界」  
(昭和49年中央公論社発行)より  
価格 3,000円(税込)

記念館で販売しています。ホームページ、  
電話での注文も承ります。(送料別途)

## テーマ展示

# 中也 愛の詩

長谷川泰子をめぐって

平成16年2月22日～7月25日

平成16年10月14日～平成17年2月13日

中也の詩に愛をテーマにしたものは数多くありますが、そこに大きな影を落としているのが長谷川泰子という女性です。しかし、詩に現れた女性像が全て泰子であり、詩に歌われた愛情が全て泰子に対するものだという点とはありません。泰子との出会いと別れを通じて、中也の愛の詩は次第に広がり深まりを見せ、最後には泰子の実像を離れた高度に詩的昇華された世界を展開します。今回のテーマ展示はその過程を追うかたちで構成されています。

「1―出会い」では、京都における二人の出会いと同時期に書かれた詩を紹介し、二人を引き合わせた放浪詩人永井叔の著書や、「ノート1924」などを展示します。

「2―別離」では、上京後に泰子が小林秀雄の許に去るといふ事件を、中也、泰子、小林のそれぞれの立場から語られたもので紹介します。小説「我が生活」の原稿をご覧ください。大きくことができます。

「3―喪失と求愛」では、小林に去られた後の中也と泰子の交流を中心に、この時期から中也の詩に多く現れるようになった喪失と求愛のモチーフの意味を明らかにしていきます。二人の文学的交流の場でもあった同人誌「白痴群」や「ノート小年時」を展示します。

## 企画展示

# 中也の書

平成16年2月22日～4月18日

この企画展では、小学生時代から晩年までの毛筆で書かれた中也の書に着目し、詩人としての魂の遍歴がその肉筆にいかにも現れているかについて紹介しています。展示は、「1―母・フク」と「2―中也」の二部構成です。「1―母・フク」は「尋常小学校時代の書」「三 中原家の墓碑銘」「四 晩年の書」の四部構成になっています。

### 一 母・フクの書と中也

中也の両親は、習字教育に大変熱心であり、小学校時代の書には、母親の影響も少なからずあったと見られます。ここでは、中也の筆跡と比較していただけるよう、中原フク関係のもの、フクの回想記や百歳の時に書かれた短冊と色紙、彼女が使用していた硯箱などを展示しています。

### 二 尋常小学校時代の書

中也の小学校時代の習字を、一年から六年まで展示するとともに、彼が使用したものと同じ習字の教科書を紹介しています。

中也が使用した習字の教科書は、明治43年、文部省によって編集発行された『尋常小学書キ方手本 乙種』（筆・香川熊威）で、明治末から大正6年頃まで使用されたものです。中也は、少学校低学年の頃、お手本に忠実な文字を書いていましたが、高学年になるにしたがって、次第に画や点を省略し行書風にくずした文字を書くようになります。そこに、基本的な枠組みにとらわれない中也の個性の萌芽も見取れます。

### 三 中原家の墓碑銘

現在、山口市吉敷の経塚墓地にある中原家累代の墓と養祖父母・中原政熊夫婦の墓の碑銘は、中也の筆によるものです。両墓碑銘の拓本を、写真ともに展示しています。

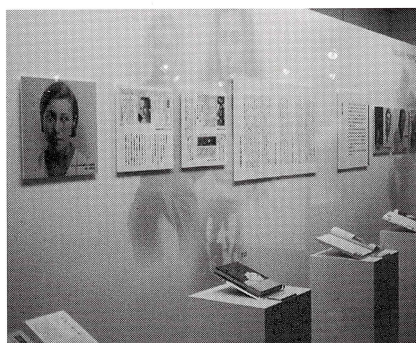
中也の弟・中原思郎の『兄中原中也と祖先たち』（審美社、昭和45年7月15日刊）によれば、これらは、中也が中学2年の夏休みに、父謙助の命で、書いたものとされています。14歳の頃の、中也の伸びやかな文字を見ることができま

### 四 晩年の書

中也の詩の原稿は、ペン書きされたものが多のですが、晩年の詩「夏の夜の博覧会」はかなしからずやや「冬の長門峡」の草稿は、毛筆で書かれています。ここでは、晩年の書を象徴する「冬の長門峡」の草稿を中心に、直筆サイン入りの『山羊の歌』、親戚に宛てた弔辞、長男・文也を亡くしたときの日記、鎌倉に転居した時期の表札などを展示しています。

「冬の長門峡」草稿には、愛児・文也を失ったことによる精神的動揺が、その乱れた文字からうかがえます。しかし、神経をすり減らしていく絶望的な精神状態に陥りながらも、何度も推敲を重ねているその過程から、生の哀感や孤独な魂の叫びを、いかに詩に結晶させようとしたか、彼の苦心のほどが見取れます。そこに、詩人としての言葉に賭ける情念のようなものも漂っています。

※次回、「続・中也の書」において、ペン書きされた原稿用紙と詩との関係についてもご紹介する予定です。



「長谷川泰子という女性」コーナー

2003

秋の企画展

# 青いソフトに

## 北原白秋と中原中也



Hakushu Kitahara

北原白秋と中原中也——この二人の詩人は、世

代の違いこそあれ明治から昭和という時代を生  
き、七五調を中心とした人々に親しまれやすい  
詩を多く残したという点で、多くの共通性を持  
っています。しかしながら、これまでその影響  
関係について詳しく論じられる機会は多くあり  
ませんでした。本年度の秋の企画展では、白秋  
と中也との接点を探り、そこから際だつてくる  
両者の個性について紹介しました。

### ● 展示構成

#### 【展示Ⅰ】①

#### 『秋』と『秋の愁嘆』——対峙する個性

明治18年に現在の福岡県柳川市で生まれ昭和17年に世を去るまでに、北原白秋は詩歌を中心とする二百冊に及ぶ著作を残しています。その巨大な業績を、「詩人として」「歌人として」「童謡作家として」「歌謡作家として」「随筆家として」「編集者として」の六つのポイントに分けて、その著作の実物とともに紹介しました。

#### 【展示Ⅰ】②

#### 『雪の宵』——小唄のリズム

白秋と中也が実際に相まみえる唯一の機会であった、詩人たちの談話会「胡桃の会」第二回会合（昭和9年11月26日）の記録、中也が白秋に献呈した『ランボオ詩集（学校時代の詩）』、中也の日記に読書記録が残された白秋の著作『洗心雑話』『まざあ・ぐうす』を展示し、両者の接点を探りました。

#### 【展示Ⅱ】①

#### 『石竹の思ひ出』と『三歳の記憶』——原郷としての幼年時代

大正10年10月7日に書かれた中也の生前未発表詩篇「秋の愁嘆」には、白秋の『東京景物詩及其他』に収められた「秋」の影響が見られます。「秋」のお洒落な（若紳士）に対して農村風の（悪魔の伯父さん）を対峙させるなど、詩的出発の頃の中也がパロディーを通じて自らの個性の輪郭をたどっていた様子を紹介しました。

#### 【展示Ⅱ】②

#### 『青いソフトに』『意気なホテルの』と『雪の宵』——小唄のリズム

同人誌「白痴群」の最終号となった第六号（昭和5年4月）に発表され、後に「山羊の歌」に収められた「雪の宵」は、そのエピソードに白秋の「青いソフトに」を引用していますし、同時に「意気なホテルの」の詩句を取り込んでいます。白秋のこの二つの詩は「思ひ出」から後に「白秋小唄集」に収められました。白秋からこうした小唄のリズムを摂取しながらも、中也は白秋にない生活実感を歌い込んでいます。

#### 【展示Ⅱ】③

#### 『童謡の時代』——子ども心との距離

白秋も中也も、ともに故郷を離れながら故郷と関わり続けた詩人でした。白秋にとって故郷柳川とそこで過ごした幼年時代は常に詩魂の源泉としてあり続けましたが、中也にとつての故郷と幼年時代とはすでに失われたものであり、より複雑な思いを抱かせるものとしてありました。そうした違いを、「石竹の思ひ出」（『思ひ出』所収）と「三歳の記憶」（『在りし日の歌』所収）を通じて紹介しました。

#### 【展示Ⅱ】④

#### 『赤い鳥』とそこに寄せられた多くの童話・童謡の果たした役割はたいへん

大正期のいわゆる童心主義の時代において、児童文化雑誌「赤い鳥」とそこに寄せられた多くの童話・童謡の果たした役割はたいへん

大きなものがあり、その中心にあったのが白秋でした。中也もまたこうした童謡ブームの渦中にいたわけですが、童謡そのものを書くこととした形跡はありません。白秋の残した童謡と中也の「童謡」「六月の雨」の比較を通じて、同じように「子ども心」を讃美しながらもその詩的形象化において違いを見せている点を紹介しました。

この企画展にあたっては、福岡県柳川市の北原白秋生家保存会（北原白秋記念館）と小郡市の野田宇太郎文学記念館、そして佐伯研二氏にご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。



展示風景

PickUp  
小企画展  
ピックアップ

PickUp

中原中也  
～和本デジタル文庫～  
創本 藤本智眷

平

成15年7月30日(水)から、8月31日(日)まで、和本作家・藤本智眷氏のデジタル和本を展示しました。藤本氏の製作する和本の特徴は、パソコンで編集したテキストを、手書き和紙にプリントアウトし、それを四つ目綴(よめじ)など日本の伝統的な装丁によって仕上げるところにあり、デジタル的なものとアナログ的なものとが見事にマッチしています。

この小企画展のきっかけは、福田館長が、『中原中也を詠う』など自身の歌集を和本にしてみたら、藤本氏に依頼したことになりました。展示したものは、中也の詩集『山羊の歌』や初期短歌などを和本にしたもの11種類、山頭火の句集を和本にしたもの3種類、その他和本の絵本や福田館長の歌集など4種類、合わせて18種類です。一つの作品につき3部づつ展示し、展示ケースの中に1部、あと2部は、「読書・休憩コーナー」に置いて、来館者が実際に手に取って自由に見られるようにしました。様々な色と形の和本が並び、

元の詩集や句集とは一風異なった味わいをもっと出していました。

また、8月6日から8月8日までの3日間、記念館において、藤本氏を講師とする「ワークショップ「和本をつくらう」を開催し、一般市民の方にも和本づくりの面白さを味わっていただきました。参加者は、それぞれお気に入りの表紙の和紙を選び、完成した和本を満足げに手にして、恋の歌でも書いてみたいといった楽しい会話をかわされていました。

また、8月6日から8月8日までの3日間、記念館において、藤本氏を講師とする「ワークショップ「和本をつくらう」を開催し、一般市民の方にも和本づくりの面白さを味わっていただきました。参加者は、それぞれお気に入りの表紙の和紙を選び、完成した和本を満足げに手にして、恋の歌でも書いてみたいといった楽しい会話をかわされていました。



和本作りの一コマ

藤本氏製作のデジタル和本

10

月15日から11月30日(リニューアルのための休館前日まで)、開催いたしました。昭和初年代後半、現在の新宿の一角にあった花園アパート。中原中也が新婚生活を送ったそのアパートは、多くの文学青年が集い、個性をぶつけ合い、切磋琢磨した文学サロンでもありました。その中心的存在は美術評論家で装幀家でもあった青山二郎であり、評論家の小林秀雄、河上徹太郎らだったのです。

この頃の様子を具体的に知ることのできる資料が、青山の友人であった竹田鎌二郎の日記です。鎌二郎は、当時喫茶店を経営しており、文学を志す青年でした。青山を通して中也と知り合った鎌二郎は、自宅近くの花園アパートを青山に紹介し、中也とも親交を結び、日々の様子を詳細に綴った11冊の日記を残しています。この日記は、当時の時代の匂いや人々の息遣いが伺える、貴重な資料となっています。

平成14年、ご子息である竹田巖氏よりご寄

PickUp

四谷花園アパート時代  
—竹田鎌二郎日記より—



書斎での鎌二郎

贈いただいた竹田鎌二郎の日記を中心として、鎌二郎の多彩な側面と、日記から浮かび上がる当時の文学青年たちの様子を紹介しました。日記に中也が登場するのは、昭和6年5月から昭和24年2月までです。昭和9年に最も多く登場し、この頃二人がいかに頻繁に行き来をしていたかが伺えました。また、中也が花園アパートを引越した後は交流が減りますが、昭和12年になって中也の神経衰弱の話を聞き「驚くとともに彼は仲々にゑらいと思ふ、やることやつてる、むくいをもともに受ける、」と日記に記しています。同じ文学を志す者としての視線が見受けられます。

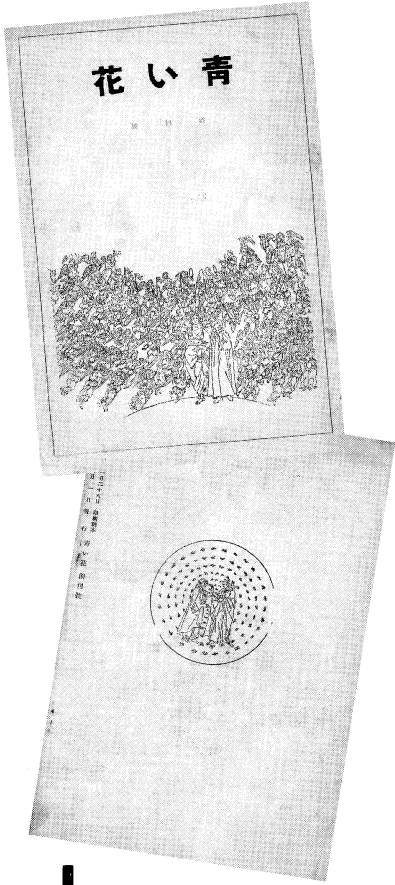
また、喫茶店「櫻」のメニューや小冊子、マッチなど彼の残した遺品から、木版彫刻師、刷り師でもあった鎌二郎の人物像も、想像することができました。

会期中には、ご子息の巖氏ご夫妻がご来館くださり、展示をご覧いただくことができました。

雑誌「青い花」

「青い花」は、太宰治を中心に、宮川義逸、檀一雄、中原中也、今官一、森敦、伊馬鶴平、津村信夫、北村謙次郎、山岸外史ら18人の同人を擁し、昭和9年12月1日に創刊された文芸雑誌です。編集者兼発行人は今官一、発行所は青い花編輯所で、創刊号の目次は、次のとおりになっています。

- |           |      |
|-----------|------|
| ロマネスタ     | 太宰 治 |
| 信濃とところどころ | 津村信夫 |
| 港市の秋      | 中原中也 |
| ナポレオンと    |      |
| ラスコリニコフ   | 雲山俊之 |
| 詩譜        | 檀 一雄 |
| 一枚の絵葉書    | 山岸外史 |
| 三つの祈り     | 今 官一 |
| 青い花の感想    | 木山捷平 |



「青い花」表紙・裏表紙

檀一雄の『小説 太宰治』（審美社、昭和39年9月刊）によると、表紙と裏表紙は、今官一が見つけてきた「神曲」の挿絵を採用したもので、表紙に赤い枠線を細く引くことを提案したのは、太宰であったとされています。この同人誌は、急激な盛り合い世帯であったため、結局、創刊号のみで廃刊となり、メンバーは四散、その大半は、保田與重郎や亀井勝一郎、萩原朔太郎らが主催した「日本浪漫派」に吸収されていくこととなります。

中也は、太宰に誘われて同人となり、この創刊号に「港市の秋」と「凄じき黄昏」の二篇を発表しました。「港市の秋」のタイトルの中には、近刊詩集「山羊の歌」より、と記されており、詩集の宣伝もしています。奥付の頁には、「青い花」同人の住所一覧が掲載されており、当時の中也の住所「東京市四谷区花園町花園アパート」が記されています。

中也と交流のあった文学仲間を知る上でも、また、昭和10年前後の文学の雰囲気を知る上でも、貴重な資料です。

全日本詩人の新聞「詩報」

「詩報」は、昭和12年8月22日に発刊しました。村上成実が発行人となっています。村上には創刊の言葉として、今日の詩の不振を語り、「我々詩壇の弱点ともいふべきものは唯一つ、一言に中央詩壇の未確立」とし、公的機関を確立しようとしていたようです。村上には詩人で、『村の外』『山川秘唱』などの詩集を出版しています。

紙面には、詩作品や随筆、評論、様々な詩雑誌の紹介や詩人の動静、日本詩人会や東京詩人倶楽部のニュースがあり、地方詩壇の消息、印刷所の広告と盛りだくさんの内容となっています。定価は、一部十銭、毎月一回発行で、一年間の定期購読も募っていました。

第1年第一号には「創刊に寄する諸家の言葉」の欄があり、薄田泣菫、高村光太郎、川路柳虹など36名の詩人等のコメントが載せられており、中也も名を連ねています。詩報告知の欄には、ランボオ詩集の広告も載せています。また、第2号には、中也の詩「夏」が投稿、掲載されています。

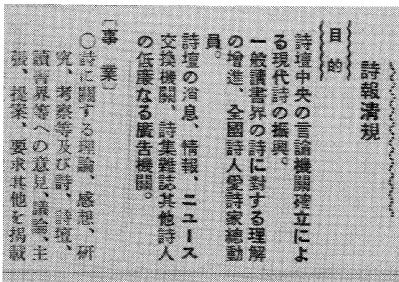
昭和13年1月発行の第4号には、「中原中也氏逝去さる」のニュースと、倉橋弥一の「哀詩二篇 中原中也 辻野久憲」が掲載されています。

「詩報」は新聞という形態のためか、現在希少であり、何号まで発行されていたのかも定かではありません。

記念館では、昭和13年2月発行の第2年第2号まで所蔵していますが、この後の号も探しています。もし、お持ちの方や古書店などで見かけた方がいらっしゃいましたら、記念館までご一報ください。



「詩報」創刊号表紙

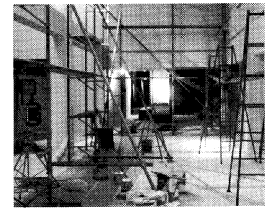


創刊号に載せられた発行の目的

|       |                                                                                                                                                                                          |        |                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 4月1日  | 小企画展「第8回中原中也賞」<br>(～5月25日)                                                                                                                                                               | 7日     | 中原中也の会第4回セミナー<br>「青いソフトに—北原白秋と中原中也」<br>講師:中原豊<br>(於 ホテルニュータナカ)                 |
| 29日   | 中原中也生誕祭 空の下の朗読会<br>自由参加の朗読〈参加者10名〉<br>おおたか静流コンサート (於 記念館前庭)                                                                                                                              | 10月4日  | 公開講座「白秋の〈こども〉、中也の〈こども〉」<br>講師:井上洋子 〈参加者21名〉<br>(於 サンフレッシュ山口)                   |
|       | 第8回中原中也賞贈呈式<br>受賞詩集 中村恵美『火よ!』(書肆山田)<br>記念講演「中原中也の若さについて」 講師 中沢けい<br>第7回中原中也賞英訳詩集贈呈<br>日和聡子『びるま』<br>(於 ホテルニュータナカ)                                                                         | 15日    | 小企画展<br>「四谷花園アパート時代—竹田鎌二郎日記より—」<br>(～11月30日)                                   |
| 30日   | 中原中也記念館運営協議会<br>(於 ホテルニュータナカ)                                                                                                                                                            | 22日    | 中也命日・お墓参り                                                                      |
| 5月28日 | 小企画展「追悼 伊藤拾郎展」<br>(～7月27日)                                                                                                                                                               | 11月21日 | 和田健氏へ山口市表彰感謝状授与<br>(歌集『末黒野』等寄贈により)                                             |
| 31日   | 中原中也の会第7回研究集会<br>「中原中也 ことばの音楽」<br>●公開対談「中原中也と諸井三郎～詩と音楽」<br>講師:諸井誠・中村稔<br>●講演「近代日本人の音楽生活—中原中也とその仲間たち」<br>講師:樋口覚<br>(於 彩の国さいたま芸術劇場)                                                        | 12月1日  | 展示リニューアルのため休館<br>(～平成16年2月21日)                                                 |
| 6月25日 | 中原美枝子氏ご逝去                                                                                                                                                                                | 5日     | 中原中也記念館運営協議会<br>(於 ホテルニュータナカ)                                                  |
| 7月30日 | 小企画展<br>「中原中也～和本デジタル文庫～ 創本・藤本智春」<br>(～8月31日)                                                                                                                                             | 2004年  | リニューアル工事中の<br>展示室                                                              |
| 8月6日  | ワークショップ「和本をつくろう」(～8日)<br>講師:藤本智春氏 〈参加者13名〉<br>(於 中原中也記念館)                                                                                                                                | 2月22日  | リニューアルオープン                                                                     |
| 31日   | 『中原中也研究』第8号発行                                                                                                                                                                            |        | 記念CD「サーカス」発売                                                                   |
| 9月3日  | 秋の企画展「青いソフトに 北原白秋と中原中也」<br>(～10月13日)                                                                                                                                                     |        | ホームページ立ち上げ                                                                     |
| 6日    | 中原中也の会第8回大会<br>「原郷としての幼年時代—北原白秋と中原中也—」<br>●パネルディスカッション「『思い出』と『山羊の歌』『在りし日の歌』」<br>パネリスト:北川透・福島泰樹・宮沢賢治<br>司会:阿毛久芳<br>●アトラクション「中原中也を歌う」:友川かずき<br>講演「原郷と文学—幼年期の白秋と私」:森崎和江<br>(於 ニューメディアプラザ山口) |        | テーマ展示「中也 愛の詩—長谷川泰子をめぐって」<br>(～平成17年2月13日)                                      |
|       |                                                                                                                                                                                          | 23日    | リニューアル記念コンサート<br>「吹く風を心の友と」<br>出演:谷川俊太郎・小室等・谷川賢作・深川和美<br>〈参加者430名〉 (於 山口市市民会館) |
|       |                                                                                                                                                                                          | 3月31日  | 企画展示「中也の書」<br>(～4月18日)                                                         |
|       |                                                                                                                                                                                          |        | 館報第9号発行                                                                        |



小企画展  
「追悼 伊藤拾郎展」



リニューアル工事中の  
展示室

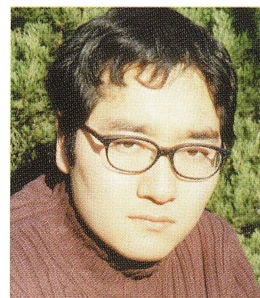


リニューアルオープン当日

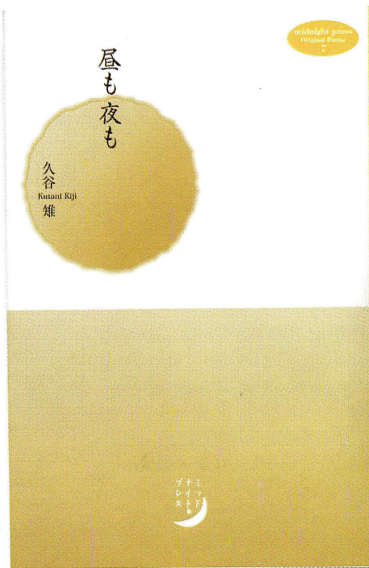
第9回中原中也賞

『昼も夜も』

久谷 雉氏



Kiji Kutani



Chuya Nakahara prize

第9回目となる今年の中也賞の選考は、2月21日に中也が結婚式を挙げたゆかりの場所である西村屋旅館「葵の間」で開かれ、応募作品303冊の中から久谷 雉氏の『昼も夜も』(ミッドナイト・プレス)が選ばれました。

久谷氏は、受賞時19歳、日本大学芸術学部文芸学科に所属。高校一年生の頃から「Midnightpress 詩の雑誌」「現代詩手帖」「詩学」などに投稿を始め、受賞詩集はこれらの雑誌に投稿していた作品を一冊にまとめたものだそうです。選考会では「思春期の情念、現代の若者の生理感覚、未知の現実の社会に対する予感が見事に表現されていることが魅力」とされ、選ばれました。

同人誌「hotel 第2章」や「母衣」にも所属し、意欲的な活動を続けています。この詩集のあとがきには、次のような言葉が記されています。

わたしにはまだ、敗者のことばを生きたい欲望が残っているようだ。  
わたしがなにに負けているのかほとんど見失いながらも、なお。

若い詩人の、これからのことばにも、大いに期待したいと思えます。

第10回中原中也賞

作品募集

【対象】

平成15年12月1日から平成16年11月30日までに刊行された現代詩の詩集(奥付の刊行年月日による)

【応募締切】

平成16年12月16日(当日消印有効)

【正賞】

受賞詩集を英訳本として出版します。

【副賞】

100万円

【選考委員】

荒川洋治

井坂洋子

北川透

佐々木幹郎

佐藤泰正

中村稔

(五十音順)

【応募方法】

著者本人が、同じ詩集を三部送付してください。また、「中原中也賞応募」と明記の上、本名、郵便番号、住所、電話番号を記入したものを添付してください。

◎送付先

〒753-0056  
山口市湯田温泉一丁目11-21  
中原中也記念館気付  
「中原中也賞事務局」 行

【発表】

平成17年(2005年)2月の選考会終了後、報道機関を通じて発表します。

◎平成16年度 記念館行事予定

2004年4月—2005年3月

|       |                          |        |                               |                 |                                   |
|-------|--------------------------|--------|-------------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 4月20日 | 企画展「第9回中原中也賞」(～5月23日)    | 7月28日  | 特別企画展「宮沢賢治と中原中也」(～10月11日)     | 平成17年<br>〈2005〉 |                                   |
| 29日   | 生誕祭 空の下の朗読会(於 中原中也記念館前庭) | 9月11日  | 中原中也の会第9回大会                   | 1月26日           | 企画展「河上徹太郎」(～4月17日)                |
| 5月26日 | 企画展「続・中也の書」(～7月25日)      | 12日    | 中原中也の会第5回セミナー                 | 2月18日           | 開館11周年<br>テーマ展示<br>「祈り～中也の宗教性」(仮) |
| 29日   | 中原中也の会・第8回研究集会(於 鎌倉芸術館)  | 10月14日 | 企画展「文学サロンとしての酒場」(～平成17年1月23日) |                 |                                   |
|       |                          | 22日    | 中也命日                          |                 |                                   |

※日程等、変更の場合もございます。

中原中也記念館 館報 [第9号] 平成16年3月31日

発行◎ 中原中也記念館 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉1丁目11-21 TEL083-932-6430 FAX083-932-6431 E-mail:chuyakan@c-able.ne.jp http://www.chuyakan.jp/ 表紙写真 | 中原中也像 高田博厚作

環境に配慮し、用紙には古紙配合率100%の再生紙を使用しています。印刷インキは植物性大豆油インキを使用しています。